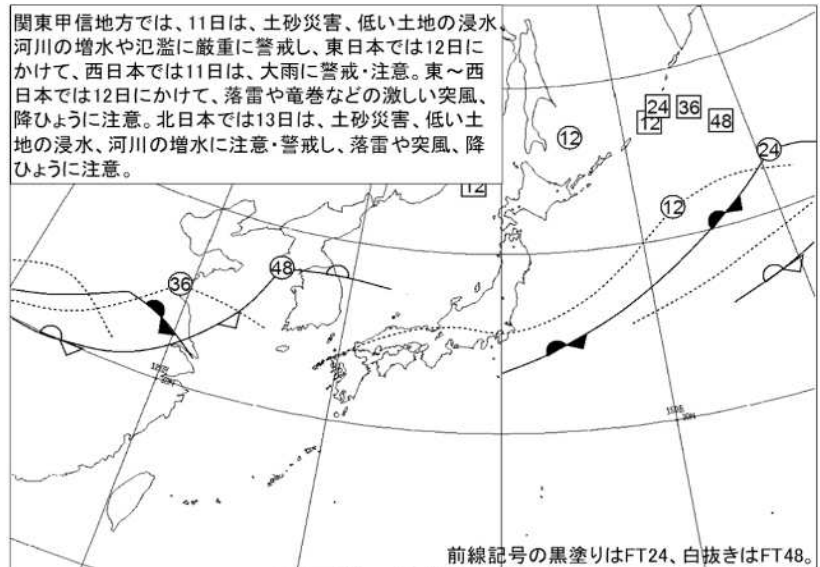


1. 実況上の着目点

① 低気圧が前線を伴い三陸沖を東北東進。前線は千島の東から本州と九州付近を通り東シナ海へのびている。前線に向かう下層暖湿気の影響で、東～西日本では、前線近傍で局地的に猛烈な雨を解析し、関東地方南部で記録的短時間大雨情報を発表、発雷を多数検知し、竜巻注意情報を発表。

② 500hPa 5640m付近の -18°C 以下の寒気を伴うトラフ対応の低気圧がサハリン付近を東進。北海道地方では低気圧と上空の寒気の影響で、激しい雨を解析、発雷を多数検知。

③ 南西諸島では太平洋高気圧の縁辺を回る下層暖湿気の流入で、激しい雨を解析し発雷を検知。



主要じょう乱解説図

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

① 1項①の低気圧は12日にかけて日本の東を北東進し千島の東付近へ進む。前線は、12日朝にかけて不明瞭化しながら本州の南岸へ南下する。前線に向かう下層暖湿気や上空の寒気の影響で、大気の状態が非常に不安定となり、雷を伴い非常に激しい雨の降る所がある。これまでの大雨の影響で地盤の緩んでいる所があり、少ない雨量でも土砂災害の危険度が高くなるおそれがある。関東甲信地方では、11日は、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水や氾濫に厳重に警戒し、東日本では12日にかけて、西日本では11日は、大雨に警戒・注意。東～西日本では12日にかけて、落雷や竜巻などの激しい突風、降ひょうに注意。

② 1項②の低気圧が12日にかけてオホーツク海を東進し、不明瞭化する。低気圧に向かう下層暖湿気と上空の寒気の影響で、大気の状態が不安定となり、雷を伴い強い雨の降る所がある。北海道地方では11日は、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水、落雷や突風、降ひょうに注意。

③ 500hPa 5880m付近の正渦度極大域に対応した前線が11日夜までに華中で発生し、12日夜までに前線上に低気圧が発生する。低気圧は500hPa 5760m付近で -9°C 以下の寒気を伴うトラフの深まりとともに発達し、14日にかけて黄海を通り日本海北部へ進む。前線や低気圧に向かう下層暖湿気や上空の寒気の影響で、大気の状態が不安定となり、雷を伴い激しい雨の降る所がある。北日本では13日は、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水に注意・警戒し、落雷や突風、降ひょうに注意。また、前線や低気圧周辺では気圧の傾きが大きくなり、強い風が吹き、波が高くなる所がある。西～北日本では13日は、強風や高波に注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

4. 防災関連事項【量的予報等】 ① 雨量(18時から24時間)：東海200、関東甲信・近畿・九州北部100mm。② 波浪(明日まで)：高い所(3m以上)はない。

③ 高潮(明日まで)：大潮の時期。西～東日本では、注意報基準を超過する所がある。

5. 全般気象情報発表の有無 「大雨と雷及び突風に関する全般気象情報」を17時頃に発表予定。